

明日も元気で来いよ！

104

12月の玄関掲示



いよいよ12月。師走を迎えました。
7日は、二十四節気の「大雪」です。本格的な冬、雪の季節の到来です。

この季節、冷たく澄んだ空気の中、夜空高くに凍ったように明るく光る月は、見ているだけで心が洗われるような気がします。

今月の玄関掲示は、そんな月の様子を言葉にしてみました。右に書いているように、「月」は秋の季語です。また「月天心 貧しき町を 通りけり」という与謝蕪村の句があります。これも秋の句だといわれています。ただ、実際に月の高度は、冬が一番高いです。俳句の世界の約束事などに関しては、全くの素人ですので、感じたままに言葉にしてみました。子どもたちには、このことも含めて話をしておきました。季節の植物として柊とシクラメンが添えられています。相変わらず、立体的で、本物のようなできばえです。個人懇談等で、ご来校の際は、ぜひご覧ください。

クイズを推理し、見事に的中！！

3年生の〇君は、玄関掲示を見て、私が出すクイズを予想し、そのことを12月1日の「たくましく・・・」で、次のように書いていました（一部を紹介します）。

今日は、学校の げんかんけいじ が かわっているのを 見つけたのでよんでみました。その中に「月天心」という言葉が見つかったので、たぶん校長先生のクイズに出そうだなと思い、調べてみました。

（家に帰って）「月心？」「心決？」というように思い出せなかったけれど、学校のホームページで調べてみました。すると「月天心」だと思い、調べてみました。

・・・すると、蕪村のはいくで次のように出てきました。意外とすぐに出てきました。

名月が中天にこうこうと輝く秋の夜更け、小家がちの路地の多い寝静まった貧しい町を通りかかったよ

蕪村の俳句は、「月天心 貧しき町を 通りけり」です。

前号でも書いた通り、私の話を契機に、子どもがいろんなことに興味をもち、自分の世界を広げてくれる。こんなうれしいことはありません。しかも、掲示された文を見て、自分なりに、クイズの問題を推理し、そこから調べています。このすばらしい好奇心、意欲をこれからも大切にしてほしいと思います。

ところで、「月」は、秋の季語です。したがって、蕪村のこの句は秋の夜空をうたったものだといわれています。この句に関しては、「蕪村は、実際に空高く輝く月を見て、この句を作ったのだろうか」「想像して作ったのではないだろうか」などと、様々な意見があります。また、「実際に天心に月が輝くのは冬だ。月が秋の季語だからといって、この句の表す情景が秋だとは考えにくい・・・」といった意見もあります。（インターネットで調べてみました）

一つの俳句をめぐる、天文に関することや、当時の社会の風習なども根拠にして様々な解釈がなされる。とても興味深いです

答えが、一つでない。どの意見が正解かもはっきりしない。でも、そのことを、自分が持っている様々な知識や情報を総動員して考え、みんなで意見を交流して考えを深めていく。これは、私たちが子どもたちに求めている学びの姿です。すぐに答えが見つかる。正解といわれる回答以外の考えは、捨ててしまう。これでは、物事を深く考える態度は育ちません。

ノーベル医学・生理学賞を受賞されたと東京工業大学の大隈良典氏は、「現在、ノーベル賞受賞者が日本から次々と出ているのは、過去の遺産を食いつぶしているに過ぎない。すぐに役立つ研究だけでなく、地道な基礎研究をこそ大事に支える社会になってほしい」といった趣旨の発言をされています。

効率、即効性が大事という考え方は、危険です。さっと物事を処理し、結論を出す力は確かに必要です。しかし、客観的、相対的にじっくり物事をとらえ、考える力はもっと大事です。現代は、ICTが発達し、あまり考えることなく、いろんなことが、ボタン一つでできるようになってきています。そんな世の中だからこそ、時間をかけて、ゆっくり、じっくり考えることが必要ではないでしょうか。